令和８年度 第１回 淡路島地域公共交通活性化協議会

日時：令和８年６月２４日（水）14:00～
場所：福良市民交流センター
３階　講堂

１．開会

２．会長あいさつ

３．議事

（１）令和７年度淡路島地域公共交通活性化協議会の活動、施策の進捗報告について　報告

事務局から説明⇒承認

福島会長
　レンタカーはざっくりとした指標なので、利用台数など細かく見ていく必要がある。
　施策は事業者のみなさまにもご協力いただきながら、取組を進めてきている。実際にやってきて、感じていることなどあればご意見をいただきたい。

片岸委員（兵庫県バス協会　淡路地区部会長（淡路交通㈱取締役バス事業部部長））
　在来線やコミバスは淡路島の津々浦々まで充実しているが、運賃が重要で、安全に運行するにはコストもかかる。これからも地域とともに路線バスを維持していきたい。

福島会長
　安全対策の取組の具体例は何かあるのか。

片岸委員（兵庫県バス協会　淡路地区部会長（淡路交通㈱取締役バス事業部部長））
　バス車両自体も安全装置の搭載で価格が高騰しており、乗務員の安全教育のために外部講師を呼んでおり、そこにもコストがかかっている。

福島会長
　ダイヤ改正やルート変更が目標値の増加にも繋がっているかと思う。

池田委員（兵庫県タクシー協会　淡路部会長（㈲みなとタクシー））
　明石海峡大橋ができてからタクシー業界は変わった。今まで島内で 16 事業者がいたが、年々数が減って現在は５者のみ。労働時間の短縮や最低賃金をクリアするのに必死。
　100 台あるタクシーのうち 65%しか走っておらず、ドライバーも少ない。

福島会長
　配車アプリもあるがどうか。

池田委員（兵庫県タクシー協会　淡路部会長（㈲みなとタクシー））
　観光客が増えたのはありがたい。

谷池委員（洲本商工会議所　専務理事兼事務局長）
　タクシーがなかなかつかまらない。

福島会長
　稼働率があまり上がっていないのは苦しい。

谷池委員（洲本商工会議所　専務理事兼事務局長）
　路線バス・コミュニティバスの年間利用者数の目標値は変えないのか。また、増えた要因は。地元客が増えたのか、観光客が増えたのか。

事務局
　今の地域公共交通計画が令和 10 年までであり、そこまでの目標値としている。次の５カ年の計画を作るときに目標値も検討していく。また、今年度は令和 11 年からの計画を立てるための実態調査等の実施を予定している。公共交通のニーズや利用実態も調査して目標値をどうするのか、細かいところまでのケアも含めて、検討を重ねて、令和 11 年の更新に反映していきたい。
　利用者が増えた要因として、３市と淡路交通が協調して行っている運賃の値下げが考えられる。実際の運賃を４割引にし、最大金額を 500 円にしている。そこから利用者数が伸びてきてる。
　これまで南あわじ市内から洲本の高校へ行くには、親御さんが送迎をしていたが、それがバスで通学できるようになって助かっているという声もある。淡路交通の縦貫線（福良～洲本）の令和７年度利用実績は約 13 万４千人であり、前年度比 12%の増加。
　淡路市のコミバスの令和７年度利用実績は約 30 万人であり、前年度比 120%の増加。

観光客が乗っているのも一因かと思う。コミバスは生活利用と観光利用の側面があるが、そこは実態調査の中で分析していきたい。

谷池委員（洲本商工会議所　専務理事兼事務局長）

増えたのは嬉しいことであり、分析もしてもらいたい。観光客の利便性を図るのも重要。また、インバウンドの利便性をどう高めるのかも検討してもらえたらと思う。

事務局

インバウンドがバスに乗るのに日本語の名称が読めない問題がある。それを解消するために、buSmo を展開しており、令和６年度には英語表記、令和７年度には中国語・韓国語にも対応するようにし、バス停のナンバリングも現在検討している。ナンバリングをすることで、路線名がわからなくても番号でわかりやすくなるかと。インバウンドの利用促進については観光協会の知恵もいただきながら進めていきたい。

福島会長

いろいろとわかりやすくするために工夫して進めてきている。

警察の観点からなにか課題や思うことはあるか。

大成委員（南あわじ警察署　交通課長）

西淡三原 IC は平時で 800～900 台くらい入ってきており､大型連休になれば約 1,300 台入ってきている。事故のうち 35%が県外ナンバーであり、観光客による事故も減らしていきたい。

事務局

（洲本市の令和７年度自動運転バス実証運行について説明）

福島会長

データの積み重ねと技術の進歩によるかと。

谷池委員（洲本商工会議所　専務理事兼事務局長）

自動運転は走らせるだけでなく､成功してもらいたい｡いかに乗ってもらうかが大事。そのためには温泉街や観光協会の協力も必要かと思う。夜に限って言えば、いかに繁華街に来てもらうかに尽きる。ホテルと飲食店のタイアップなど、施策として事業に組み込むのもありかと思う。

地白委員（淡路島観光協会　観光戦略室長）

　淡路島の観光客約 1,300 万人のうち９割が日帰りで、ほとんどが車できている。約130 万人が宿泊客で、そのうち約２万人がインバウンド客。インバウンドのうち一番多いのが香港・台湾。香港からの観光客は自国と運転環境が変わらないということでレンタカー利用もある。

　欧米からの観光客や国内でも遠方からの高齢者の観光客においては、島内の移動の利便性が求められる。ニジゲンノモリには約７万人のインバウンドがきているが、だいたいは神戸に帰ってしまう。洲本市には温泉街が密集しており、ニジゲンノモリから洲本・南あわじに来てもらうために色々チャレンジしていきたい。

　また、神戸空港でも増便されて、韓国からの観光客が増えてきている。淡路島に来てから目的地への移動手段をわかりやすくしていきたい。

　一番の理想は、観光客が増加した利益を地元の人に還元できるような形。

（２）令和７年度淡路島地域公共交通活性化協議会決算（案）　協議１

令和７年度淡路島地域公共交通活性化協議会決算 監査報告

事務局から説明（質問・意見なし）⇒承認

（３）令和８年度淡路島地域公共交通活性化協議会予算（案）について　協議２

令和８年度淡路島地域公共交通活性化協議会スケジュール（案）について

事務局から説明（質問・意見なし）⇒承認

（４）令和９年度幹線系統補助・フィーダー系統補助の計画認定申請（案）について　協議３

事務局から説明（質問・意見なし）⇒承認

申請事務における軽微修正等については会長・事務局一任とすることで承認。

４．その他

事務局

　南あわじ市において、運転免許返納者への支援としてコミバスの１年フリーパス券をプレゼントしており、令和７年度から最大５年間に拡充した。その結果、令和７年度から申請が増えてきている。実際に返納者は増えてきているのか。

小林委員（洲本警察署　交通課長）

洲本管内では車がないと生活できないとのことで、免許を手放せないのが現状。認知症やその他の病気などで家族が心配になって連れてくる例もある。淡路市も南あわじ市も返納者支援の取組が進んでいる。

事務局

高齢者の事故をニュースでよく見る。バスを無料で利用できるとしても、バス自体が使いやすいものじゃないと意味がないので、悲しい事故を減らしていくためにも、引き続き警察の方にもご協力いただきたい。

柿原委員（近畿運輸局　交通企画課　大塚課長代理）

（国土交通省における「交通空白」解消の取り組みについて説明。）

地域の衰退・都市への人口流入が本当の課題。解決に向けた国の動きとして、地域交通法が改正され、地域の輸送資源のフル活用が組み込まれた。学校・病院・福祉施設の送迎サービスを公共交通に取り入れていくもので、実証実験に対して国からも補助金を出していく。

【配付資料】

協議会名簿、配席図、協議会規約

報　告：令和７年度淡路島地域公共交通活性化協議会の活動、計画の経過報告について

協議１：令和７年度淡路島地域公共交通活性化協議会決算（案）

令和７年度淡路島地域公共交通活性化協議会会計監査報告

協議２：令和８年度淡路島地域公共交通活性化協議会予算（案）

令和８年度淡路島地域公共交通活性化協議会スケジュール（案）について

協議３：令和９年度幹線系統補助・フィーダー系統補助の計画認定申請（案）について

淡路島地域公共交通計画（概要版）